

埼玉県私立中入試概況

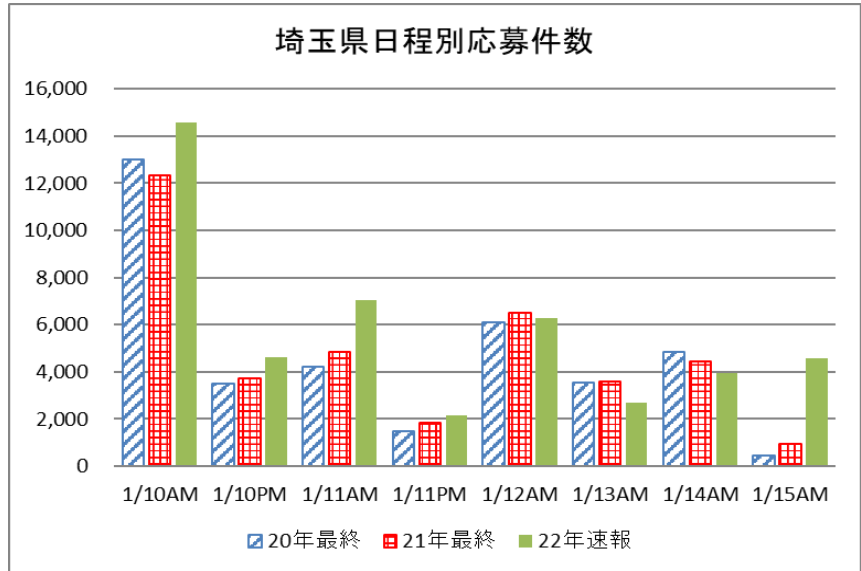
1. 概況 応募総数は大幅増加、短期決戦色が強い

埼玉県内の公立小6児童数は義務教育学校(2019年度から発足)を含めて約62,200名で、昨年より約200名減っています。県内の公立中高一貫校を含む中学入試の応募総数は、2月28日現在では約57,900件で、昨年の最終が約51,400件でしたから約6,500件と、大幅に増えました。昨年はコロナ禍に見舞われたこともあって減っていて、コロナ禍は今年も変わりませんが、入試が始まる1月10日の時点では1月後半から2月にかけて見られた感染爆発には至って

いなかったこと、また、万一濃厚接触者などになった場合でも、2月1日からの東京・神奈川の入試が始まる前に無症状なら自宅隔離が解除できる日程になっていたことで、首都圏の中学入試の拡大が一気に現れたための増加でした。

また、全国応募者数トップの栄東は、密を避けるために昨年は1月10日の入試を10日と12日の日程選択として、同校第一志望の受験生は受験のチャンスが1回減ったことで応募者も大きく減りました(それでも1万件は超えました)が、今年に入試を1回追加して、日程選択でも4回受験できるようにしたことで、再び大きく増えました。今年増えた応募件数の約三分の一は栄東です。実際の受験者数、合格者数も約5,000件増加しています。

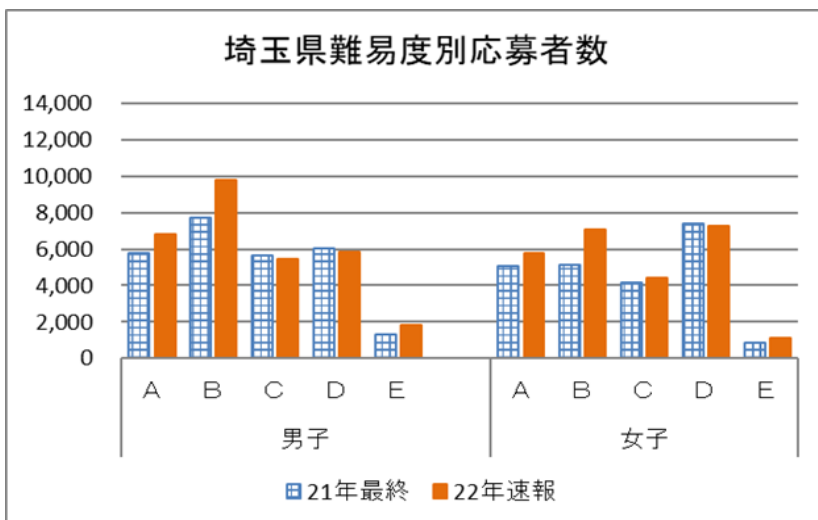
まず日程別の応募状況を見てみます。上のグラフです。他都県同様、私立・国立・公立一貫校合計が本来ですが、国立の埼玉大附属は入試が2月1日でグラフには含まれていません。また、私立各校は一般入試が1月10日開始と、入試日程が日付でルール化されていますが、公立一貫校は曜日固定のため、年ごとに日程が動きます。そのため、同じ日付で見ると応募者数が大きく増減することがあります。



今年も応募総数では1月10日午前が14,000件を超えて最多です。昨年より大きく増えました。10日午後は約900件、11日午前は約2,200件、そしてグラフ右端の15日午前は約3,600件の増加です。このうち、10日午後は私立各校の少しずつの応募者増加の積み上げですが、11日午前は栄東の入試増設が増加の中心で、15日午前は伊奈学園、市立浦和、川口市立が昨年の16日から移ってきたことで大幅に増えました。13日午前や14日午前は減っていて、私立の入試は10日から12日の午前と10日午後が中心になっています。私立は短期決戦色が強く、ここでうまく合格できなかったらその後の日程で、という受験パターンが多くなっています。

次に、難度別での応募状況も考えてみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA~Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べました。Aは難関校、Bは上位校、Cは中堅校、Dはやや入り易い学校、Eは入り易い学校です。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応

募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今用用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。グループの学校は右のグラフの下に一覧で表示しました。



男子はBグループが最多で、昨年版では栄東のA入試をBグループに分類していましたが、今年からAグループに移し、昨年の数値も計算しなおしたので、Bグループの集中度合いは下がりました。Aグループは昨年より約1,000件、Bグループは約2,200件増えて、人気の中心です。C・Dグループはそれぞれ約200件減っていますが、Eグループは件数では少ないものの、応募者が500件以上増えていて、中学受験のすそ野が広がっています。

女子では栄東のA入試の分類変更で、Dグループが最多になりましたが、Bグループもほぼ同じ応募者数です。Aグループは約700件、Bグループは約2,000件の増加で、やはり人気の中心です。Cグループは少し増えて、Dグループは少し減っています。Eグループは300件近く増えましたが、男子よりも少なく、中学受験のすそ野は男子ほどは広がっていないようです。以下、各校の状況を見ていきます。新設の川口市立、市立大宮国際中等、市立浦和高附属、伊奈学園は、公立一貫校のページをご覧ください。

2. さいたま市・その周辺地域

今年も応募総数は1万件を超えて日本一の栄東から。同校は昨年、新型コロナウイルス感染拡大防止で最大

◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で埼玉県私立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…浦和明の星・開智(特待)・栄東(東大・A)
- B…大宮開成・開智(先端)・開智未来(T未来)・栄東(難関大)・淑徳与野・城北埼玉(特待)・立教新座
- C…青学浦和ルーテル・大妻嵐山(奨学)・開智未来(未来)・春日部共栄(I T)・埼玉栄(医学・難関大)・埼玉大附属・城西川越(特選)・昌平(T)・西武台新座(特待)・西武文理(特待)・星野学園(理数)・細田学園(特待)
- D…浦和実業・大妻嵐山(一般)・開智未来(開智)・春日部共栄(プロレック)・埼玉栄(進学)・狭山ヶ丘高附属・城北埼玉(一般)・昌平(一般)・西武文理(一般)・西武台新座(特待以外)・聖望学園(奨学)・東京農大第三(特待)・獨協埼玉・星野学園(進学・総合)・細田学園(一般)・本庄東高附属
- E…大妻嵐山(まなび力)・国際学院・埼玉平成・自由の森学園・秀明・城西川越(一貫)・聖望学園(一般)・東京成徳大深谷・東京農大第三(一般)・武南・本庄第一

の受験者数の1回を1月10日と12日の日程選択とし、両日の併願は不可とし、東大選抜を特待として1月16日に集約するなどの変更を行って、受験生側から見れば4回あった入試が実質的に3回に減っていました。そのため、各回次合計の応募者数は減りましたが、それでも1万名を上回りました。今年1月10・11日の日程選択に変更し、12日にも入試を実施して一昨年と同様、4回受験できるように変更するとともに、一般の入試と東大選抜入試を一部入れ替えました。合計の応募者数は1万2千名を超えて、一昨年も上回っています。合格最低点は10・11日のAは難関大、東大とも

少し下がっていて、18日の東大特待Ⅱは少し上がるなど、動きがみられる回次もありますが、併願受験生が多数ですから、難度は昨年並みでしょう。

栄東のライバル校、開智は1月10日以外の入試日程を1日前倒しにしたり、後にずらすなどの変更がありました。一昨年は各回次合計で5千名を超える応募者がありました。昨年は4千名台に減少、今年は増えましたが、やはり4千名台に留まっています。合格最低点は各回次とも上がっています。少し得点しやすい出題だった面はあるにせよ、受験生の学力層が上がっているようで、特に特待認定はやや難化しています。

大宮開成は一昨年の各回次合計の応募者数は増加、昨年は栄東の日程変更の影響もあって減少、今年は再び増加しました。特に1月10日は時間帯を2つに分けるなど、「密防止」の対応を行っています。12日の特待入試は、特待認定の難度は昨年並みですが、10日の1回と14日の2回は上昇、特に1回は大きく上昇していて、難化した厳しい入試でした。

青学浦和ルーテルは2019年に青山学院大学の系属校になって校名を変更した学校です。基本的に小中高一貫校のため、入試も小規模でしたが、系列化に伴って人気は急上昇、応募者が大幅に増加、小規模ではなくなりました。受験生の期待はもちろん、青山学院大学内部進学です。一昨年は応募者が倍増、昨年は2教科受験を取りやめるなど、受験のハードルを高くしましたが、応募者の増加は続きました。しかし、今年は大きく減っています。急速な難化が続いたため、敬遠ムードが出ています。合格最低点は未公表ですが、受験生の学力水準が上がっているため、難度は下がっていないようです。

栄東の系列校、埼玉栄は1月12日午後の入試を11日午後に移しました。一昨年は、各回次合計の応募者数が大きく増えましたが、昨年は少し減っていて、今年は11日午前が昨年並みだったものの、他の回次は大きく増えています。同校自体の人気も上がっていますが、1月10日・11日は午前に栄東、午後に埼玉栄といった「バック受験」が浸透してきた面もあります。医学・難関大・進学の3コースで、合格最低点は10日午前が各コースとも少し上がっていますが、出題内容の影響でしょう。他の日程は昨年並みで、難度は変わっていないようです。

浦和実業は1月12日午後の特待2回を、英語をセ

ットにした3教科に変更しました。英検取得者に対しては取得級によるみなし得点が決められていて、英語の入試得点とみなし得点の高い方を採用する方式です。昨年は各回次合計の応募者数が一昨年並みでしたが、今年は増加していて、男子よりも女子の増加が目立っています。ただ、英語をセットにした2回特待だけは男女とも減りました。入試回次によって、合格最低点は昨年と比べて上下していたり、昨年並みの回次も見られますが、出題内容と得点分布の関係でしょう。各回次の難度はあまり変わっていないようです。

武南は1月11日午前入試を12日午前に移しました。同校は京浜東北線沿線では一番都内に近い立地ですが、以前は都内の受験生の「お試し受験」が少なく、入試は小規模でした。2019年から入試増設、広報活動の強化などの積極策に出て応募者が増加、一昨年からは各回次合計の応募者数の増加が続いていて、今年も増えています。合格最低点は未公表ですが、不合格者が少なく、難度は昨年と変わっていないようです。

国際学院は一部の入試日程を変更しています。小規模な入試の学校で、各回次合計の応募者数は昨年並みでした。難度は昨年とあまり変わっていないようです。国立の埼玉大附属の帰国生入試は3月に実施で、本稿には掲載できません。一般入試は一昨年が前年並み、昨年は減りましたが、今年は男女とも増えています。実際の受験者数と合格最低点は未公表ですが、少し難化したかもしれません。

女子校では、浦和明の星は、昨年は1月14日の1回、2月4日の2回とも応募者が少し減りましたが、今年は1回が少し増えて2回は減っています。2回は4年連続で減っていますが、日程が重なる都内校を選ぶ受験生が増えているのでしょう。1回は合格最低点が少し下がっていて、やや入り易くなったかもしれません。2回は昨年並みです。淑徳与野の応募者数は、一昨年は1月13日の1回が増加、2月4日の2回は前年並み、昨年は1回が少し減って2回はやや増えている、今年は1回が増加、2回はやや減っています。2回の減少はやはり都内校に回った受験生が増えたからでしょう。1回は、昨年は合格最低点が上昇していましたが、今年は少し下がっていて、やや入り易くなったかもしれません。2回は昨年並みで難度に変化は見られません。

3. 東武東上線南部・西武線方面

男子校から見ていきます。城西川越は特選と総合一貫の2コース制です。各回次合計の応募者数は昨年まで増加が続いていて、今年も増加しました。人気が上がっています。1月10日午前の総合一貫1回、午後の特選1回、11日午前の同2回と午後の総合一貫2回が増加の中心です。合格最低点は回次によって少し上下が見られますが、出題内容との関係でしょう。特選、総合一貫とも難度はあまり変わっていないでしょう。

城北埼玉は、一昨年は各回次合計の応募者数が前年並み、昨年は各回次とも増加、今年は逆に1月18日の3回が昨年並みだったものの、他の回次は減っていて、隔年的な人気の変化です。15日の2回は昨年並みの合格最低点ですが、他の回次は少し下がっていて、やや入り易くなったかもしれません。

立教新座は、一昨年は1月25日の1回の応募者が増加、帰国と2月3日の2回が少し減っていて、昨年は1回と帰国が減って2回が増えました。今年は1回と帰国が増えて2回が減って、合計ではやや増えた応募者数でした。例年通り補欠が出ていて、合格最低点は1回と帰国が昨年並み、2回は少し下がっていますが、出題内容の影響でしょう。難度はあまり変わっていないようです。

男女校では、西武文理は一昨年まで特選と一貫の2コース制でしたが、昨年これをグローバルコースとして一本化するなど、入試を大きく変更しました。今年は一部の入試日程を変更しています。昨年はコース一本化で応募者数のカウント方法を変更したこともあって、一昨年まで続いていた各回次合計の応募者数が大きく減少しました。今年は大きく増えています。1月10日午後の特選入試や16日の適性検査型が増加の中心です。合格最低点は本稿執筆段階では未公表ですが、併願の受験生も多いことから、各回次とも昨年並みの難度でしょう。

星野学園は入試に特に変更点はありません。理数選抜と進学の2コース制で、各回次合計の応募者数は一昨年前年並み、昨年は大幅に増加、今年はやや減りました。1月11日午前午後が減少の中心ですが、小幅の減少です。実際の受験者数、合格者数も減っていて、合格最低点は1月10日午後の理数選抜1回が少し下がり、11日午後の進学2回が少し上昇、14日午前の総合選抜は上がっています。10日午前・11日午前は昨年並

みです。10・11日の入試は難度に変化はなさそうですが、総合選抜は少し難化したようです。

狭山ヶ丘高付属も入試に特に変更点はありません。2019年まで連続して各回次合計の応募者が少しずつ減っていましたが、一昨年は前年並み、昨年、今年と増加が続いて人気が回復してきました。合格最低点は未公表ですが、難度面はあまり変わっていないようです。西武台新座は特選・特進の2コース制です。1月14日午後に適性検査型入試を新設しました。各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と増えていましたが、今年はやや増えたものの、昨年並みと言ってよい人数です。適性検査型は小規模で、まだ受験生に浸透していないようです。合格最低点は昨年より少し上がっている回次、逆に下がっている回次が見られますが、出題内容と得点分布の影響でしょう。難度はあまり変わっていないようです。

聖望学園は専願・一般の区分の見直しや1月12日午後に2科4科選択の入試を新設。12日午前の1科選択やプレゼンの入試を18日に移すなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年まで減っていましたが、昨年、今年と増加が続いています。昨年に続いて1月10日の増加が目立っていますから、志望順位が高い受験生が増えています。合格最低点は一部未公表もありますが総じて昨年並みで、難度に変化はなさそうです。開校3年目の細田学園は、1月13日午前の3回を廃止し、同時実施の特選2回を12日午前に、適性検査型のdots2回を16日午前から15日午前に移しました。今年も各回次合計の応募者の増加が続く、学校の認知度が上がりつつあります。実際の受験者数、合格者数も増えました。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難度は昨年並みのようです。

全寮制の秀明は、入試日程などに一部変更がありました。各回次合計の応募者数は前年並みが続いています。全寮制という性格上、今年も小規模な入試で難度も変わっていないようです。自由の森学園は入試日程などに一部変更がありました。本稿執筆時点でまだ終わっていない入試がありますが、各回次合計の応募者数は少し増えています。今年も小規模な入試ですが、独特な教育方針を支持する受験生は少しずつ増えています。難度は昨年並みだったようです。

4. 東武スカイツリーライン・伊勢崎線・日光線方面

春日部共栄は、プログレッシブ政経とIT医学サイエンスの2コース制としました。また、1月13日午前の3回は午後に移して算数1科入試を新設、2月3日午後の4回を1月15日に移すなどの変更がありました。各回次とも応募者数は大きく増えていて、コース制を受験生が歓迎していることがわかります。このこともあって、1月10日午前午後、11日午前午後は合格最低点が上がっています。少し難化したようです。13日午後と15日は昨年並みでした。2つのコースは、本来は興味関心で選びますが、中学受験の力は算数で差がつくことが多いこともあって、理系のIT医学サイエンスが高い合格最低点になりました。

獨協埼玉は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と前年並みが続きましたが、今年は各回次とも増加しています。女子よりも男子の増加が大きく、男子の人气が目立っています。合格最低点は1月12日の2回が男女とも上昇していて、難化しています。11日の1回と17日の3回は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。昌平は、今年は帰国生入試の日程が変わっただけでした。昨年まで各回次合計の応募者数の増加が続いていて、今年も増えましたが、今年の増加は小幅です。合格最低点は英語が必須のグローバル入試や算数1科目入試では少し下がっていますが、出題内容の関係でしょう。Tクラスも含め、2科や4科の入試は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

開智未来は昨年新設した、系列校の開智の受験生が希望すれば開智未来の合格判定も行う入試を1月10日午前から15日午前に移し、それに伴って15日午前の2回を17日午前に移しました。各回次合計の応募者数は一昨年少し減少、昨年は大きく増えて、今年は再び少し減っています。合格最低点は少し上下がありますが、総じて難度に変化はなさそうです。

5. 東上線北部・高崎線方面

大妻嵐山は英語1教科入試やプログラミング入試を取りやめ、2科4科選択の通常の入試を午後に移すなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は今年も増加が続いていますが、1月10日午前のまなび力入

試よりも、午後の2科4科選択の入試の方が増えていて、他校併願の受験生が増加の中心になっています。本稿執筆段階で合格最低点は公表されていませんが、難度面はあまり変わっていないようです。

男女校では東京農大第三は、4回の日程を1日前倒しにしました。各回次合計の応募者数は、昨年まで増加が続いて人气が上がっていましたが、今年は少し減っていて、人气が一段落したようです。合格最低点は未公表ですが、難度面ではあまり変わっていないようです。埼玉平成は国算英から選択の1科入試を1月12日午前と23日午前に新設したほか、11日午前のプラクティカル入試を取りやめ、10日午後にプログラミングのSTEM入試を新設するなどの変更がありました。1科入試新設が功を奏して、各回次合計の応募者数は大きく増加しました。昨年まで小規模な入試でしたが、小規模を脱しています。不合格者は少なく、難度面はあまり変わっていないようです。

高崎線方面では、本庄東高附属が曜日の関係で今年も3回の入試日程を変更したほか、1月13日の2回の総合型を、以前と同じ4科に変更し、2科4科選択としました。各回次合計の応募者数は一昨年少し増えていて、昨年は減少、今年は昨年とほぼ同じ応募者数です。合格最低点は一部に昨年より大きく上がっているものがありますが、合格者が少ない入試ですから得点分布の関係でしょう。難度はあまり変わっていないようです。本庄第一も曜日の関係で3回の日程を変更しました。中高一貫生は2022年春高校を卒業で実績が出ていないこともあって、各回次合計の応募者が少し減少、今年も小規模な入試でした。東京成徳大深谷も、科目や入試日程の変更がありました。やはり中学受験がまだまだ広がっていない地域事情もあって、今年も小規模な入試でした。

☆